

住民主体の地域創生プロジェクト－誰もが役割感を持った社会の実現に向けて－

開催概要

本邦では、急速に少子高齢化が進んでおり、互いに人格と個性を尊重し合い、理解し合いながら共に生きていく共生社会を実現することが求められている。我々が専門とする作業療法は、病気や障害のある人のみならず、健康と幸福のために必要な活動へ参加に困難を抱える様々な世代の人々を対象とし、誰もが生活の中で役割感をもち、自分らしい暮らしを実現できるよう支援している。

本プロジェクトは、地域住民と協働することで、誰もが暮らしやすい地域づくりに貢献することを中心概念に据えている。地域社会で人々が役割を持って活動することで、健康感や社会的繋がり、自己肯定感を高められると考える。最終的には地域住民が主体となり、住み慣れた場所で役割を持ち安心して暮らせる環境を構築することをゴールとする。我々はその過程をサポートし、自治体や商店街と連携し、地域創生への展開を目指す。

令和6年度の事業で行った2回のワークショップでは、現状の課題として「地域での活動について知る機会が少ないこと」や「地域に貢献したいと思っても、行動に移す契機が少ないこと」が明らかになった。世代ごとに求められる具体的な役割としては、高齢者に対しては「伝統の継承」や「こどもたちの見守りボランティア」が、中年者に対しては「多世代が参加・交流できるイベントの開催やボランティアの機会をつくること」、「防犯パトロール」、「子育て支援、外国人支援」、「広報支援」、「地域防災に関する活動」が、小中学生には「ボランティア活動」、「あいさつ活動」、「ゴミ拾い」などが挙げられた。

今年度の事業では、昨年度のワークショップで挙げた世代ごとの役割を基に、住民と共に各世代が役割を遂行できる「居場所」づくりを検討し、実際に活動内容の検討および運営を行った。さらに区役所より依頼を受け、名東区コミュニティ交流会に参画した。

実施担当者

西浦 裕子	医学系研究科・助教・総括
河崎 千明	医療法人白楊会 上社白楊クリニック・作業療法士・プロジェクトの計画、実施および会場提供
玉津 伸一	医療法人白楊会 上社白楊クリニック・事務長・プロジェクトの会場提供
田中 将裕	日本福祉大学・講師・プロジェクトの計画および運営協力
細野 裕里子	医学系研究科・博士後期課程1年・プロジェクトの計画および運営協力
加田 千鶴	医学系研究科・博士前期課程2年・プロジェクトの計画および運営協力
寶珠山 稔	医学系研究科・教授・プロジェクトの監修、助言（アドバイザー）

開催場所：医療法人白楊会 上社白楊クリニック

1. 世代ごとに役割を持つことができる活動の検討と実施計画

誰もが役割を持ったまちづくりを目指し、住民主体で活動を検討していく住民会議および運営会議を実施した。住民会議には、名東区民の20代1名、30-40代2名（うち1名は区役所職員）、シニア世代1名にご参加いただき、各世代が役割を持って参加できる活動について検討した。運営会議は、住民会議で取り上げられたアイデアをまとめ、実現可能性を検討する場とし、本プロジェクトの実施担当者である河崎、田中、細野、加田、西浦の5名で実施した。いずれもオンライン会議とし、R7年11月からR8年3月までに、住民会議を計5回、運営会議を計7回実施した。各会議の詳細を以下に述べる。

住民会議

日付：2025年11月6日、12月3日

2026年1月23日、3月16日、19日

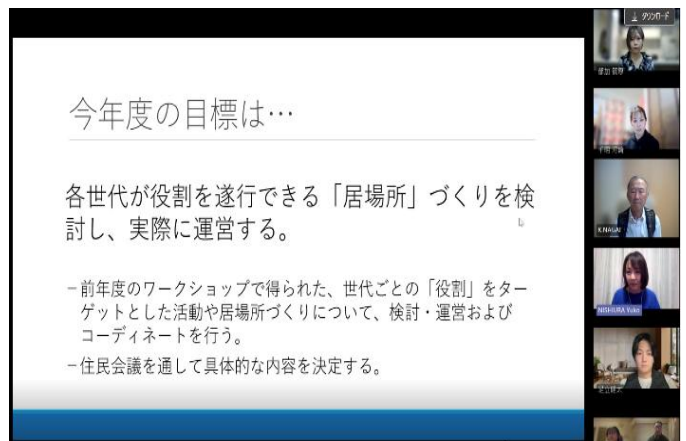
<住民会議の様子>

時間：20時30分～21時30分

※全体会議は上記の計5回 その他個別会議数回

場所：いずれもオンラインミーティング

第1回：昨年度の振り返りと今年度の目標共有
R6年度の本事業ワークショップで挙げた世代ごとの役割を共有し、今年度中に各世代が役割を持つことができる居場所づくりを実現するという目標を共有した。



第2回：各世代に役割のある活動の提案

地域で各世代が役割をもつことができる活動としてどのようなことが考えられるか、アイデアの共有を実施した。以下のようなアイデアが挙げられた。

- ウォーキング：コースを決めてそれぞれの世代が楽しめる工夫をする。
- 写真展示：地域の魅力が伝わる場所や活動の写真を集めて集会所などに展示する。
- あいさつ強化デー：登校時間や散歩時間に決まった場所であいさつ活動を行う。
- 掃除・ゴミ拾い：清掃をすると何らかの特典があるなどの施策を考える。
- 地域の居間づくり：誰もが立ち寄れる「地域の居間」のような場所を作る
- 朝活：朝の時間帯を有効活用し、多世代交流や運動などの活動を実施する。
- こどもカフェ：高齢者施設などで子どもたちがお茶屋やお菓子を提供したり高齢者から伝統を学べる場を作る。

第3回：具体的な活動の検討

今年度の活動内容について、前回会議からテーマを「多世代交流を促進する朝活(仮)」に絞り、具体的な内容を検討した。第2回までの住民会議の内容を基に、運営会議にて下記のように概要を提案した。

参加：小中学生・シニア世代

運営：大学生、中高年

場所：名東区内の通所リハビリなどの事業所

内容：朝の体操、お茶の提供（小→高）、伝統文化の伝承（高→小）など

課題：大学生が運営に関われるか？ 場を提供してくれる事業所があるのか？

上記の提案を踏まえ、住民会議では以下の意見が挙がった。

- ・高齢者の人を巻き込んでいくのが大事かなと思うので、参加に高齢者を含めたい。
- ・運営の方のリクルートは？

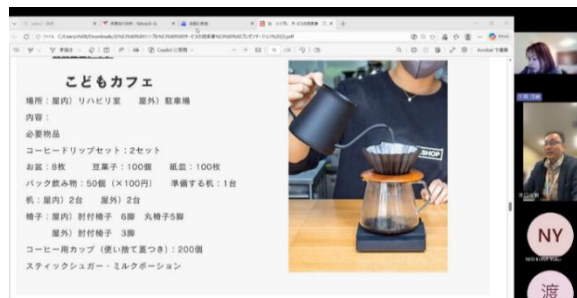
⇒中高年は住民会議にご参加いただいているみなさま、去年度ワークショップに参加してくださった方に協力していただく。

- ・大学生について：日本福祉大学の学生さんが企画を担当。

第4,5回：イベントに向けた事前の共有

住民会議で挙がった意見を踏まえ、運営会議側で具体的な企画、計画を進めた。当日のイベント内容と流れ、参加者の役割分担などを共有した。

※以下に述べる「運営会議」および「こどもカフェモーニングの企画」参照



運営会議

- ・日付：2025年10月3日、11月1日、12月5日、18日
2026年1月30日、2月13日、18日 計7回
- ・時間：各回1時間程度
- ・場所：いずれもオンラインミーティング
- ・会議概要

運営会議では、住民会議で挙がったアイデアを集約し、今年度の実現可能性の検討および具体的なイベントの企画・提案、そして大学生と中高年を中心としたイベント準備のファシリテーションや小中学生に向けた事前説明について検討、実施した。なお、イベント開催場所は上社白楊クリニック、日時は3月22日（日）7時30分から11時と決定した。



<大学生>

2月4日 アイデア出し

- ・桜の花の折り紙：飲み物と一緒に折り紙（ピンク）を渡す。小中学生が来客に折り方を教え、完成したら桜の木の幹を描いた模造紙に貼る。
- ・音楽リクエスト：模造紙の中央に質問（あなたの好きなアーティスト or 曲は？）を書き、来客に回答を記載してもらう。記載された曲を映像とともに流す。（元気回復行動プラン: WRAP 風）
- ・会話カード：各テーブルに会話カード(なりたい職業、趣味、子供の頃の遊び、など)を置いておき、それを基に小中学生が来客とコミュニケーションを取る。
- ・動物将棋：通常の将棋より短時間で勝敗がつき、動き方が誰でも分かる動物将棋のコーナーを作る。
- ・駄菓子コーナー：懐かしい駄菓子を並べたコーナーを作り、コーヒーとともに食べたり、小中学生との交流の手がかりにしたりする。

3月10～12日 制作

上記のアイデアに必要な物品（模造紙上の桜の幹、桜の花の折り方や動物将棋のルールの説明書、会話カード、駄菓子コーナーの看板）を制作した。

<小中学生>

3月9日、3月17日 19:00～20:00 顔合わせ

いずれか参加可能な日に会場である上社白楊クリニックに集まり、顔合わせを行った。

- ・3月9日：自己紹介、会場案内、駄菓子のアイデア出し、飾り付けのアイデア出し、当日の集合時間や持ち物の確認を行った。飾り付けの制作および桜折り紙の練習は、当日までに各自で制作を行った。
- ・3月17日：自己紹介、会場案内、桜折り紙の練習、メニュー表の作成、当日の集合時間や持ち物の確認を行った。

※なお、小中学生は小学3年生から中学3年までの者を対象とし実施担当者の機縁募集および、名東区「私設図書館もん」から希望者を収集した。参加者には事前に保護者に対して参加の同意や緊急連絡先の回答を必須とした。

<中高年>

イベントの運営に必要な安全管理・衛生管理マニュアルの作成、参加者の保護者同意の項目検討、全体の役割分担の検討、チラシを含む各資料作りを行った。

<シニア>

名東区上社学区、本郷学区、西山学区、極楽学区、名東みらい会および名東鯨友会を中心にチラシを配布し、こどもカフェモーニングへの参加者を募った。

こどもカフェモーニングの企画

今年度の活動コンセプト

こどもカフェモーニング

「朝活」をテーマに、小中学生が店員になり高齢者を中心とした地域の方にまちの居場所を提供します。そこには、作業療法士が得意とする空間と活動の提供の仕方を工夫し、異世代の方が自然と役割を果たすことができます。大学生は、イベント企画と小中学生への指導を、中高年が安全・衛生管理を中心にを行います。



交流企画1

桜の花の折り紙

場所：リハビリ室、玄関～駐車場
内容：リハビリ室の壁に、桜の木の幹を描いた模造紙を貼っておく。飲み物と一緒に一枚折り紙を渡し、小学生がお客さんに教え、完成したら模造紙に貼る。

必要物品
模造紙：1枚 折り紙：ピンク100枚
のり：5本 はさみ：5本
セロテープ・マスキングテープ：1個

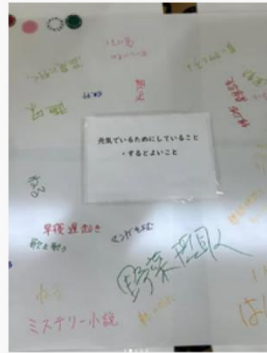


交流企画2

音楽リクエスト (元気回復行動プラン)

場所：リハビリ室、待合室（スピーカー）
内容：模造紙の中央に質問（あなたの好きなアーティストまたは曲は？など）を書き、お客さんや小中学生に記載してもらう。そこから流す音楽・映像を選択

必要物品
模造紙：1枚 カラーペン：1セット
プロジェクター：1台 タブレット：1台
スマホスピーカー：2台



交流企画3

会話カード

場所：すべての喫茶テーブル上
内容：各テーブルに会話カード（内容は小中学生と検討）を置いておき、それを基にコミュニケーションをとってもらう

必要物品
画用紙（四つ切り）：4～5枚（テーブル分）
カード入れ：テーブル数



交流企画4

動物将棋

場所：待合室
内容：通常の将棋よりも短時間で勝敗がつき、動き方が簡易的な動物将棋を置いておく

必要物品
動物将棋：2セット



交流企画5

駄菓子コーナー

場所：待合室
内容：懐かしい駄菓子を並べたコーナーを作り、コーヒーとともに食べたり、小中学生との交流の手がかりにしたりする。

必要物品
駄菓子：10種類×10個
駄菓子ボックス：1
画用紙（八切り）：1枚



備必要物品・資料

- 衛生管理
- ウェットティッシュ：各テーブル
 - 使い捨て手袋：KHCのものを使用
 - ゴミ袋（ゴミ箱の設置）：5か所
 - 手指消毒：KHCのものを使用
 - 次亜塩素酸：キッチンハイターで当日作る
 - 衛生管理マニュアル作成：済
 - 模擬店届：担当西浦（ゴミ箱配置）
- 会場設営
- 配置図：次ページ参照（担当：細野）
 - のぼり：発注済
 - Tシャツ（運営用）：発注済

- 安全管理
- 小中学生緊急連絡先名簿：グーグルフォーム集計済、作成中
 - 安全管理マニュアル作成：済
 - 接客マニュアル作成：作成中
- 大学生チーム
- 動物将棋、桜の折り紙の説明書作成
 - 音楽リクエスト・桜の台紙作り
 - 会話カード作成
 - 駄菓子のポップ作り
- 小学生チーム
- 装飾作成
 - 駄菓子10種類決め
 - 接客マニュアルを読む
 - 名札作成

当日人員配置・動線（前後半でチェンジ）

★カフェ担当（リハ室⇄サロン）

小中学生6人 大学生2人
待機している小中学生は、お客さんが来たら「いらっしゃいませ」とあいさつし、席に案内する。メニュー表から注文を書き、サロンに注文を伝え持っていく。接客の仕方受け渡し方やお皿の持ち方はマニュアルを作成し事前に小中学生に配布する。わからないことがあれば大学生がサポートする。

流れ	小中学生	大学生
接客	接客をして席を案内	小中学生を指導
オーダーをとる	メニュー表を渡し、オーダーをとる	小中学生を指導
オーダーを話す	オーダーをサロンへ伝えに行く	小中学生を指導
商品を運ぶ	サロンからお皿で駄菓子と共に飲み物を運ぶ	安全チェック
見送り	挨拶をして机にゴミがめれば片付け、机を片づける	小中学生を見守り、巡回中だけ

★イベント担当（リハ室、待合室）

小中学生7人 大学生2人（リハ室1，待合1）
（他1名は案内係）
小中学生は飲み物を飲んでいる方へ声かけ交流もしくは将棋・駄菓子スペースに2名配置し視線を行う。大学生は必要に応じて、会話がなそうであればフアンリテートをを行う。

流れ	小中学生	大学生
桜の花	折り紙を折り方を教え、一緒に作る。模造紙に貼る	見守る
音楽リクエスト	好きな音楽を書きながら、紙に記入していただく	見守る
動物将棋	動物将棋を行う	見守る
会話カード	コーヒータイム中に声かけを行い、カードに沿って会話を進める	会話が進まなければフアンリテート
駄菓子コーナー	1つ好きな駄菓子をすす	1人1個であるように声かけ会話をきっかけを作る

2. こどもカフェモーニングの実施

- ・日時：R8年3月22日（日） 7時30分から11時
- ・場所：医療法人白楊会 上社白楊クリニック（旧白楊会病院）
- ・参加者：運営メンバー10名，大学生5名，小中学生13名，
シニア世代を主としたお客様 約30名
- ・内容：小中学生によるコーヒーと茶菓子の提供、ブースごとの活動（桜の折り紙，音楽リクエスト，会話カード，動物将棋，駄菓子コーナー）を大学生の助言の下実施した。中高年はドリップコーヒーを入れる、安全衛生管理を行い、お客様であるシニア世代と小中学生が活動を通して交流できる場を提供した。
- ・結果：実施後のアンケートより、小中学生からは「普段できない経験ができて楽しかった」「世代を越えた方々と交流ができてよかった」「また参加したい」といった意見が得られた。大学生および運営メンバーからは、「多世代が関わることが改めてとても良い事だと感じた」「色々な作業を通して自然と会話が生まれて楽しかった」といった意見が得られた。一方、「シニア世代のリクルートに苦戦した」「チラシに地図を載せた方が良い」といった課題や改善点に関する意見もあった。

【こどもカフェモーニングの様子】



3. 名東区コミュニティ交流会への参加

名東区役所区政部地域力推進課より依頼を受け、本プロジェクトとのコラボ企画と位置づけ、R7年度名東区コミュニティ交流会「名東区の地域担い手づくりワークショップ」の運営を行った。具体的には、全体の進行は河崎と西浦が、ワークショップ冒頭のアイスブレイク（自己紹介、共通点差探し）を本学の大学院生2名が担当した。また学部生および院生計8名が各グループでファシリテーションを行い、様々な世代や立場の人に担ってほしい役割、人材を募るためのアプローチ方法について検討した。概要を以下に述べる。

- ・開催日：R7年12月10日(水)
- ・開催場所：名東区役所 講堂
- ・参加者：学区役員等59名
- ・テーマ：地域の担い手づくりワークショップ
- ・結果



- 様々な世代や立場の人に担ってほしい役割として、以下のようなテーマが挙げられた。

「あいさつ運動」「防災訓練参加」「祭り運営」「SNS広報」

- 誰に・何を・どう働きかけるかを「はじめの一步シート」にまとめた。

中高生：学校やボランティア部との連携による防災訓練や行事参加の促進

高齢者：サロンや地域団体を介した声かけによる見守り・パトロール参加

子育て世代：得意分野を生かした役割依頼、イベントを通じた自然な関わりづくり

全世代：公式LINE・ホームページ・回覧を活用した情報発信

※名東区ホームページ参照 <https://www.city.nagoya.jp/meito/kosodate/1025302/1025303/1045511.html>

4. まとめ

今年度のまとめ

本事業では、地域住民を主体とした活動および居場所づくりを検討し、世代ごとに役割を分担しながらイベント運営を実践した。その結果、参加者の発言やアンケートから、子ども、大学生、中高年、シニアにいたるまで、多世代がそれぞれの役割と意義を実感できる取り組みであったことが示唆された。さらに、区政活動への参画を通じて自治体との有機的な連携が生まれた点も、本事業の重要な成果であると考えている。

次年度以降への展望

本年度の活動を継続・発展させ、自治体や地区商店街との連携を強化し、地域に定着する取り組みへと繋げる。5年後には地域主体で自走する体制の確立を目指し、我々は段階的にファシリテーションの役割縮小を見据え、実現可能性を踏まえた企画運営を行う。